CISPR32: マルチメディア機器からの電磁エミッション新国際規格

Dan Hoolihan
Hoolihan EMC Consulting
Lindstrom, Minnesota USA

国際電気標準会議（IEC）の国際無線障害特別委員会（CISPR）で、何年もかけて開発していた最終国際規格案（FDIS）が2011年後半に可決承認された。実際には、情報技術機器、マルチメディア機器、受信機の電磁両立性（EMC）を担当しているCISPRのI小委員会によってFDISが作成された。この規格は「CISPR 32」と呼ばれ、タイトルは「マルチメディア機器の電磁両立性ーエミッション要求事項」である。本稿では新規格の内容を簡単に説明し、いくつかの判定基準を紹介する。

規格の概説

規格の構成は、大部分の国際規格の通常の条項 / 段落の配列に従っている。つまり「適用範囲、引用規格、機器の区分、許容値、測定法、機器の付属文書、適用方法、試験報告書、適合条件、測定の不確かさ」という構成である。

適用範囲

CISPR 32は、交流または直流の定格電圧が600ボルト以下のマルチメディア機器（MME）に適用する。この規格は、EMC試験室内で試験する機器のために書かれている。

それには、以下の2つの目的が含まれる：

1. 無線周波スペクトラムの適切なレベルを提供する必要条件を確立し、無線サービスが周波数範囲9kHz ～ 400GHzで意図どおりに動作することを可能にする。

2. 試験室間の測定結果の再現性と測定方法の再現性を確保するための手順を定める。

引用規格

CISPR32で規定されている引用規格は次の通りである：CISPR 16-1-1:2010、CISPR 16-1-2:2003、CISPR 16-1-4:2010、CISPR 16-2-1:2008、CISPR 16-2-3:2010、CISPR 16-4-2:2011、CISPR/TR 16-4-3:2004、IEC 60050-161:1990、IEC 61000-4-6:2008、ISO/IEC 17025:2005、IEEE 802.3、ANSI C63.5:2006。

用語、定義、略語

規格内の重要な定義を抜粋：

3.1.6 – オーディオ機器ー音声信号の発生、入力、記憶、再生、修復、送信、受信、増幅、処理、切換、制御（またはその組み合わせ）のどちらかを主要な機能とする機器。

3.1.7 – 放送受信機ー放送サービスの受信を目的とするチューナーが内蔵されている機器

3.1.15 – 娯楽用照明制御機器ー劇場内やテレビ・音楽番組、ビジュアルプレゼンテーション内での芸術的効果を生む場において、照明機器からの光の強さ、色彩、性質や方向を制